

「令和7年度 市民トーク」開催結果（勝間田地区）

以下のとおり結果を報告します。

1 日時等

- (1) 日 時 7月14日（月） 午後7時00分～午後8時30分
- (2) 会 場 勝間田会館
- (3) 内 容 市長からの市政報告・地区からの質問
- (4) 参加人数 45人

2 市長からの市政報告

当日の配布資料を添付

3 地区からの質問

別紙のとおり ※事前質問は回答書を配布・当日の会場での質問あり

4 当日の様子



令和7年度 市民トーク（勝間田地区）質問・要望一覧

日時：令和7年7月14日（月）
19時～20時30分

場所：勝間田会館

番号	事 項 名	担当課
1	災害時におけるドローンの有効活用について	建設課
2	集中豪雨における勝間田川の治水について	建設課

令和 7 年度 市民トーク

勝間田地区（7/14 開催）

質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	1 災害時におけるドローンの有効活用について
内 容	災害状況の正確な情報をいち早く避難指示の判断をする為、幅広く活用できるので導入を考えてみてはどうですか？ （豪雨時の河川の増水、危険箇所の把握、地震時の家屋の被害、道路の損壊、土砂崩れなど） ドローンの操縦育成（若い人）もお願いしたい。 【担当：建設課】
回 答	市では、令和 4 年度に B&G 財団の事業を活用して、ドローンを 1 台購入し保有しております。市職員のドローンの操作資格保有者は、令和 7 年 4 月 1 日現在で 18 名です。 用途としては、道路、河川等の災害現場、廃棄物の不法投棄や市の事業等の現場確認及び撮影などに活用しています。 ドローンは、雨天や風速 10m/s 以上の条件下では飛行はできませんので、豪雨時等については、県が二級河川萩間川、勝間田川、坂口谷川に設置している水位計と水位観測地点に設置している定点カメラにより状況を確認しております。また、本年度にはこの 3 河川に各 1 台の定点カメラが増設されましたので、その情報も活用してまいります。 降雨後においては、ドローンを活用できますので、災害現場等の確認に今後も活用してまいります。さらに災害時以外の活用についても進めてまいります。 活用を進めるうえで、職員の操作資格保有者の拡大及び操縦技術の習熟を図ってまいります

令和 7 年度 市民トーク

勝間田地区 (7/14 開催)

質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	2 集中豪雨における勝間田川の治水について
内 容	大雨の都度、危険にさらされる勝間田川には、朝生川、三栗川、鳴沢川等、他にもいくつかの川が合流しています。災害が起きるたびに 1 箇所ずつ復旧工事（対策）をするのではなく、大規模な河川改修の取り組みは可能でしょうか。 ※勝間田区だけの問題ではなく、下流の川崎区、静波区とも、勝間田川の問題を共有したい。 【担当：建設課】
回 答	勝間田川の河川改修につきましては、勝間田川水系河川整備計画に基づき、下流側から河川を広げる河川改修を進めており、現在は河口から準用河川新川までの約 3.1 km の区間において、整備前の最も流下能力が低い箇所で概ね $100 \text{ m}^3/\text{S}$ でしたが、整備後においては概ね $280 \text{ m}^3/\text{S}$ に改善されております。 準用河川新川から上流の勝間田保育園の西側にある学橋までの改修につきましては、新たに河川整備計画を策定する必要がありますので、整備計画を策定した上で上流部の河川改修を要望してまいります。 そのような河川整備計画の策定や河川の改修には時間がかかりますので、ボトルネックとなっている三栗川などの合流部につきましては、個別に対策を講じてもらうよう県に要望してまいります。

「市民トーク（勝間田地区）」の当日参加者による質問

※会場での質疑応答を要約してあります。

追加質問 1 「そらっと牧之原」のトイレについて

坂部地区の「そらっと牧之原」に関して、トイレ整備についての発言があった。一般的に、公共施設や鉄道駅では男性トイレが空いている一方、女性トイレは長蛇の列が常態化し、苦情や要望が多い。その原因は、男女でトイレ面積を同じに設定しているため、面積を広く必要とする女性用が個数的に不足する点にあるとされる。これに対して「そらっと牧之原」では女性トイレの面積を 2 倍に確保しており、この対応は英断であり高く評価できる。今回の事例は単独の事業判断なのか、あるいは社会的な動きの一環なのかを確認したい。女性トイレの増設は歓迎すべきことであり、今後の方向性について説明を求める。

【回答者（市長）】

先週、完成した施設を視察したところ、女性トイレは男性の 2 倍の面積を有し、12 室の個室に加えて化粧台や 6 基の手洗いが整備されていた。男性トイレは大 3・小 7 程度の計 10 基で、面積は女性の半分となっている。さらに、ファミリートイレ、障害者用トイレ、授乳室も併設され、他には例を見ないほど配慮された施設となっていた。国の基準や指導によるものではなく、今回の設計段階から全国 14 ヶ所の道の駅を運営する TTC を指定管理者として参画させ、設計者とともにプランを策定した結果である。運営の現場で女性トイレの混雑を数多く経験してきたことが反映され、女性トイレの大幅拡充につながったものと認識している。

追加質問 2 勝間田川の治水について

勝間田川の治水については、3 年前の台風 15 号で大きな被害が発生し、市長とともに県知事へ要請を行った。現在、少しずつ進展はしているが、当時は稲刈りが終わリレタスの作付けが始まった直後であったため農作物被害は目立たなかった。もし時期が 1 か月早いか遅ければ甚大な被害になっていたと考えられる。農家が安心して経営できるよう、スピード感を持った治水対策の推進を強く求める。

【回答者（市長）】

三栗川との合流点については、すでに掘削が進められており、当時と比べれば通水

断面が広がり、流水量は確実に増していると感じている。ただ一方で、左岸側の堤防は依然として高さが不足しており、越水の危険が残っているため、かさ上げを早急に実施してほしいという要望を出している。

過去に県が行った対策として堤防道路の舗装があったが、これは非常に効果があったと評価している。実際に越水はあったものの、舗装されていなければ堤防が切れて大きな被害が出ていたと考えられる。舗装によって決壊が防がれたことは大きな成果であり、その点は高く評価している。

しかし根本的な問題は、堤防の高さが十分でないことにある。このままでは再び大きな被害を招く恐れがあるため、かさ上げの早期実施が不可欠である。そうした思いから、先日も土木事務所に直接、改めてかさ上げを急いで進めてほしいと強く要請した。

【質問者】

ありがとうございました。